

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	地域で暮らす人の理解			担当講師名	専任教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護 学科	1	A・B	1(30)	講義	令和6年前期
科目目標・単元目標 人々は、地域社会の中で生活している。人が生活すること、生活する場を知り地域の特徴を理解する。 個人・家族の多様性(文化・習慣・健康観・価値観・生きる力)を理解する。自分の生まれ育った地域の実際から、市(自治体)、社会福祉協議会、患者会などが健康な生活に向けて行っている支援を理解する。健康な暮らしに向けての課題を他者と共有しながら見出していく力(、また、それを人に伝える)を育成する。					
授業概要 自分の生まれ育った地域の特徴から、どのような健康状態の特徴があるのか、健康な生活に向けて地域で行われている支援を理解する。地域調査を行い地域の実情を知り、健康な暮らしに向けての課題を他者と共有して理解を深める。生活の場を理解するために、施設の見学も含める。ボランティア活動への参加から、自発的な意思に基づく自主的な活動により、支援の必要な人の生活は支えられていることや、地域の人との交流の場ともなることなど、地域での暮らしを知ることを理解につなげたい。					
卒業時到達目標との関連 DP- ①・2・3・4・5・6・7・⑧・9・10・⑪・12					
回数	時間数	内 容	回数	時間数	内 容
1	2	1 個人・家族の多様性(文化・習慣・価値観・生きる力)の理解	11	2	4. 県北地域と他地域との違い 3)より健康な生活に向けての課題と施策 (グループワーク)
2	2	2 住環境・食生活の変化と健康状態の理解	12	2	4. 県北地域と他地域との違い 4)資料作成 (グループワーク)
3	2	3 自分の生まれ育った地域と福祉の理解 1)調査項目・調査方法・ツール等抽出 (グループワーク)	13	2	
4	2	3 自分の生まれ育った地域と福祉の理解 2)資料作成 (個人ワーク)	14	2	4. 県北地域と他地域との違い(発表)
5	2	3 自分の生まれ育った地域と福祉の理解 3)分の生まれ育った地域と福祉(発表)	15	2	5. 地域住民の特徴とその支援の実際 (地域で活動されている保健師との質疑)
6	2	4. 県北地域と他地域との違い 1)健康状態の特徴と違い (グループワーク)	テキスト・参考書 地域療養を支えるケア メディカ出版 成績評価の方法 学習の成果物で評価する ☐ 筆記試験 ☒ レポート評価 ☒ グループ演習評価		
7	2				
8	2	4. 県北地域と他地域との違い 2)福祉制度・支援の特徴と違い (グループワーク)			
9	2				
10	2	4. 県北地域と他地域との違い 3)より健康な生活に向けての課題と施策 (グループワーク)			

三次看護専門学校 授業要項

科目	地域・在宅看護概論			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護 学科	2 年	A・B	1 (20)	講義・演習	令和6年前期
科目目標 地域で在宅で療養する人を取りまく状況や在宅看護の特徴と重要性について理解する。					
授業概要 1 現代の社会背景をもとに、地域・在宅看護の必要性及びその目的・特徴を理解する。 2 訪問看護サービスの種類や法的根拠を踏まえ、訪問看護の主な活動と看護師の責任を理解する。 3 地域の保健医療福祉活動における在宅看護の位置づけと看護師の役割を理解する 4 地域での療養生活を支援する社会資源の種類や関連職種を知り、連携の必要性と方法について理解する。 5 在宅看護の現状や社会の動向を踏まえ、在宅看護が抱える問題と課題について考える。					
卒業時到達目標との関連 DP- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫					
回数	時間 数	授 業 内 容	回数	時間 数	授 業 内 容
1	2	1 地域・在宅看護の概念 1) 地域・在宅看護が必要とされる社会背景 2) 在宅ケアにおける在宅看護の特徴と役割	9	2	5 地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関との連携 1) 療養の場の移行に伴う連携（入退院支援） 2) 多職種連携・地域連携 3) 医療機関、医療専門職との連携 4) 医療施設・介護施設、福祉専門職との連携
2	2	3) 地域・在宅看護の役割・機能と特徴 4) 地域・在宅看護の基本理念と倫理			
3	2	2 在宅療養者と家族の支援 1) 地域・在宅看護の対象者 2) 在宅療養の成立条件 3) 在宅療養の場における家族の捉え方	10	2	6 在宅ケアの連携とマネジメントの実際（外部講師） 1) 地域包括ケアシステムと在宅ケア 2) 地域包括支援センター役割・機能 3) ケアマネジメントと看護 4) 関連職種との連携 5) 在宅ケアシステムの実際
4	2	3 地域・在宅看護のしくみ 1) 訪問看護とは 2) 訪問看護の制度と現状 3) 訪問看護における看護職の役割 4) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション			
5	2				
6	2	4 地域療養を支える制度と社会資源 1) 社会資源の活用 2) 地域での療養生活を支える医療保険制度			
7	2	3) 高齢者の地域での療養生活を支える制度と社会資源 4) 障害者の地域での療養生活を支える制度と社会資源	【テキスト・参考書】 在宅看護論「地域療養を支えるケア」 MCメディカ出版 【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		
8	2	5) 難病療養者を支える制度と社会資源 6) 子どもの地域での療養生活を支える制度と社会資源 7) 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目		地域・在宅援助理論		担当講師	専任教員	
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期	
第一看護 学科	2 年	A・B	1 (15)	講義	令和6年後期	
科目目標						
地域で在宅療養する人の特性と在宅における援助の考え方を理解し、在宅看護の展開の特徴を理解する。						
授業概要						
講義：地域で暮らす療養者やその家族を理解するための看護の考え方を学ぶ。 その人のライフスタイルを崩さず自分らしく生きていけるようにセルフケア能力を高め、療養者や家族が望むQOLの維持・向上を目指すための日常生活援助の考え方、在宅での医療技術の考え方について学ぶ。また地域・在宅看護過程の展開方法を学ぶ。						
卒業時到達目標との関連						
DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12						
回数	時間 数	授 業 内 容		回数	時間 数	授 業 内 容
1	2	I. 暮らしを支える日常生活援助技術の考え方 1. 「生活すること」の支援 1) 生活とは 2) 生活の自立支援 3) 家族の支援				
2	2	2. 在宅療養の場における生活の特徴とアセスメント 1) 生活ケアの目的と意義 2) 食事 3) 排泄 4) 移動・移乗 5) 療養環境の整備 6) 暮らしを支える社会資源				
3	2					
4	2	II. 暮らしを支える治療援助技術の考え方 1. 在宅での健康管理と治療援助技術の目的と意義 2 在宅看護でのフィジカルアセスメント 3 在宅におけるリスクマネジメント				
5	2	III. 在宅療養における看護過程の展開 1. 地域・在宅看護過程の展開方法 1) 情報収集とアセスメント 2) 情報源と情報収集方法 3) 生活を視点においた対象・家族の理解とアセスメント				
6	2					
7	2	4) 地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画立案・評価		【テキスト・参考書】 地域療養を支えるケア メディカ出版 写真でわかる訪問看護アドバンスインターメディカ		
8	1					
				【成績評価の方法】 ■ 講義出席・演習参加 ■ 筆記試験		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	地域・在宅看護技術			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護 学科	2 年	A・B	1 (15)	講義	令和6年後期
科目目標 地域での暮らしを支える看護の方法を理解する。 1) 在宅療養の場における生活援助技術と治療援助技術について理解できる。 2) 療養者・家族、介護者にとって負担の少ない生活環境の整備とケア方法について理解できる。					
授業概要 療養者と家族の健康保持とQOLの維持・向上を目指すために必要な基本技術と日常生活援助、医療処置技術を理解する 演習・校内実習 在宅での日常生活援助技術、医療処置技術					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12					
回数	時間 数	授 業 内 容	回数	時間 数	授 業 内 容
1	4	I. 暮らしを支える日常生活援助技術 1. 初回訪問時の面接技術とマナー 2. 生活ケアの実際を通して支援の在り方を考える 1) 老々介護による寝衣交換 2) 在宅にある物を活用してのケア			
2	2	3. 在宅における生活リハビリと環境調整 1) 障害や生活・健康状態に応じたリハビリテーション			
3	3	2) 環境整備に活用できる社会資源 3) 抱えない看護と介護			
4	2	II. 暮らしを支える治療援助技術 1. 在宅における感染防止 2. 在宅における薬物療法 服薬管理(麻薬)、輸液管理(CVポート) (グループワーク)	【テキスト】 ・地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」(MCメディカ出版) ・写真でわかる訪問看護(インターメディカ) 【参考書】 ・地域・在宅看護論②「在宅療養を支える技術」(MCメディカ出版) ・地域・在宅看護論第5版(日本看護協会出版会) ・看護実践の根拠がわかる在宅看護技術(メディカ出版) ・よくわかる在宅看護論改訂第2版(学研) ・在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして(南江堂)		
5	2	3. 在宅における呼吸管理 在宅酸素療法(HOT) 在宅人工呼吸療法(HMV) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) (グループワーク)			
6	2	4. 暮らしを支える援助技術 (発表)			
			【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート内容 ■ 講義出席状況・グループワーク参加状況		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	地域・在宅援助論演習			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護 学科	3	A・B	2 (40)	講義・演習	3 年次前期
科目目標 病院から地域に移行する人、地域で暮らす看護を必要とする人々がフォーマル・インフォーマルでどのような支援を必要としているかを考え多職種で解決していく方法が分かる。また、地域における暮らしを支える看護の実践がわかる。					
授業概要 様々な事例から、療養者と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践を学ぶ 1 訪問看護に必要な療養者の情報を理解できる。 2 在宅療養者および家族の問題や課題を統合的にアセスメントできる。 3 在宅療養者および家族の状態に応じた、自立と生活の質の向上のための看護計画を立案する。 4 訪問看護での看護計画、情報収集計画を実施、評価し、療養者・家族の状態に応じた看護の方法を習得する。 5 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討する。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1. 各時期別看護の実践 1) 健康期～入院期・在宅準備期の看護 2) 在宅療養移行期～安定期・急性増悪期の看護	12	2	2) 看護上の問題点の明確化 ①療養者と家族の全体像の把握 ②療養者と家族との問題の共有 3) 優先順位の判断 (グループワーク)
2	2	2 療養場所の移行に応じた支援の実践 1) 入・退院による療養場所の移行に向けた課題 2) 在宅療養生活への移行における包括的支援	13	2	4) 計画立案 ①目標の設定 (長期、短期) ②ケア計画 ③情報収集計画 (グループワーク)
3	2	3 エンドオブライフケアを決定しながら在宅療養をして行く人の看護 1) 地域・在宅看護におけるエンドオブライフケア 2) エンドオブライフケアにおけるアセスメント 3) 看取りとグリーフケア	14	2	5) 計画の立案・実施 ロールプレイングの実施準備 (グループワーク)
4	2	4 障害を持ちながら在宅療養している人の看護 1) 中途障害者となった患者への看護 社会資源の活用の実践 2) 障害を持ちながら一人暮らしすることへの支援	15 ・ 16	4	【ロールプレイングの実施】 ①ケア計画の実施 ②情報収集計画の実施 ※コミュニケーション技術 ※実践のスペースの調整
5	2	5 難病のある在宅療養者とその家族への看護 筋萎縮性側索硬化症 (ALS・パーキンソン病療養者への支援の実践)	17	2	6) 評価 (GW・ロールプレイまとめ) ①目標の達成度と、療養・家族の満足度 ②看護の内容、介入方法の振り返り
6	2	6 地域で生活する医療的ケア児とその家族への看護 脳性麻痺、デュシェンヌ型筋ジストロフィー療養児への支援の実践	18 ・ 19	4	10. 継続支援の方法 1) 看護サマリーとは 2) サマリイの書き方と実際
7	2	7 認知症を持ちながら地域で生活している人への支援 1) 療養者とその家族への看護 2) 多職種・地域との連携	20	2	11. ICTを活用した多職種連携 1) 地域・在宅看護におけるICTツール 2) ICTによる情報管理 3) ICTによる多職種連携
8	2	8 訪問看護のマナーの実践 家庭訪問した場合の玄関や畳の部屋での挨拶・上がり方	【テキスト・参考書】 ・ナーシング・グラフィカ21 在宅看護論「地域療養を支えるケア」：櫻井尚子他編、MCメディカ出版 ・写真でわかる訪問看護：押川眞喜子監修、インターメディカ		
9 ・ 10 ・ 11	6	9 日常生活動作に障害のある人と家族の看護 1) 情報整理・分析・判断) ①健康状態 ⑤経済状態 ②ADL ⑥家事 ③介護力 ⑦社会交流 ④家屋構造・環境 ⑧ストレス	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		